



目次	
図書館長に就任して……………	1
学術講演会……………	2
立命館大学における図書館改革……………	3
電子ジャーナルの充実について……………	4
ホームページから(1)電子図書館紹介……………	5
ホームページから(2)インターネットでの 「研究用図書購入申込」が本運用に……………	5
本館閲覧室改装のお知らせ……………	5
平成14年度附属図書館統計……………	6
「講談社学術文庫」配架のお知らせ……………	6
平成15年度国立大学図書館協議会賞受賞 ……………	7
新館長就任……………	7
分館長再任……………	7
附属図書館委員会委員……………	7
附属図書館委員会……………	7
人事異動……………	8
図書館日誌(会議, 研修)……………	8

<http://www.lib.ehime-u.ac.jp/>

## 図書館長に就任して

藤川 研 策

4月に図書館長を拝命し、柏谷先生の後を引き継ぐことになった。館長室は、図書館の正面南側、4階の東の端にある。小生は、昭和39年の4月に文理学部(=現在の法文学部の前身)に赴任したが、その直後に、現在の図書館の建物が新築された。3・4階部分は、文理学部の人文・社会科学系の教官の研究室で、小生も4階東側の一室を宛われた。昭和55年に法文学部の研究棟ができるまでの16年間で、図書館の4階で過ごしたわけである。図書館の階段の上り下りは、いわば「忘却の彼方」にあった人々のことや出来事を懐かしく思い出させてくれる。

小生の専攻は商法学である。メインの会社法の領域では、重要な改正が続いており、大きな変革期を迎えている。一言でいうならば、規制緩和・会社法の任意法規化の徹底であり、この流れは当分続きそうである。その目的は、公開会社においては、企業取引や企業の資金調達の分野で国際的な競争が激化するなかで、

事前の後見的な規制を極力排して、事後的規制を中心とする競争力のある公開会社法を構築することにある。来年からスタートする国立大学の法人化も、ユニバーシティ・ルール規制緩和をはかり、グローバル競争に打ち勝つ大学を目指そうというものであり、会社法のルール規制緩和と共通する部分を多く持っているように思われる。

ヨーロッパにおける中世の都市のインフラ整備の結果生まれたのが、学者の同業組合としての大学であり、大学図書館だったといわれる。当時の大学は、「大学自治」、学部をまとめる「哲学部」、共通の言語の「ラテン語」および「図書館」という四つの要素で特徴づけられ、知識は図書館に収蔵されるラテン語で書かれた本の中に蓄えられていたという。法人化により、大学、したがってまた図書館も、「競争と連携」と言う厳しい環境におかれることになるが、法人化後も、知識の収集と保存の役割を果たす大学図書館の重要

性に変わりはないだろう。また、大学図書館が、学生達が自ら学び研究するための、勉学と思考の場であり、そのための環境が確保・維持されていかなければならないことも、言うまでもないことである。この点に関しては、大学の理解と英断により平成13年度から館内設備等の大幅な改修が始められ、ずいぶんと明るい環境が確保されつつあることはまことに喜ばしいことである。今年度はキャレルデスクの設置などを予定しており、学生諸君の一層の利用を期待している。

電子図書館機能の充実、法人化後の図書館職員の採用・研修・人事交流、施設の増設・整備等々、懸案は山積み状態でもある。国立大学図書館の振興をはかり、大学の使命達成に寄与するために、広く図書館活動に貢献し

てきた「国立大学図書館協議会」は、法人化される来年からは、「国立大学図書館協会」として新たに発足していくことになった。先般、埼玉で開かれた最後の国立大学図書館協議会は、「第50回記念総会」と銘打って開かれたものであったが、記念講演の一つとして、有川九州大学附属図書館長が「図書館が変われば大学が変わる」というテーマで自身の館長としての信念について熱弁を振るった。それを「冷や汗をかく」思いで聴いていた小生には、いかほどの信念の持ち合わせもないのであるが、事務職員共々全力を尽くして、解決策ないしは解決の方向を提示していけるよう努力してまいる所存である。今後益々のご理解・ご支援をお願いする次第である。

(ふじかわ けんさく 附属図書館長)

## 学術講演会

平成15年3月11日（火）に、立命館大学BK C研究部門次長郷端清人氏を講師に招いて平成14年度附属図書館学術講演会を開催いたしました。

演題は「立命館大学における図書館改革」で、大学図書館の経営戦略について講演をしていただきました。愛媛地区大学図書館協議会加盟館からも多数の参加があり、講演後も活発な意見交換が行われました。

立命館大学では早くから大胆な大学図書館改革が行われ、全国の大学図書館の注目を集めてきましたが、郷端氏はその中心になって活躍されました。今回の講演でも、その豊富な経験をもとに、大学図書館改革の方向性、電子化時代に対応した改革、経営面での新たな展開などについてお話いただきました。法人化を迎える国立大学図書館のみならず、参加された全ての大学にとって非常に示唆に富む内容で、大変有意義な講演会となりました。

この度、郷端氏から今回の講演の内容の要約をご寄稿いただきましたので、掲載させていただきます。また、当日の講演の資料をホームページに掲載させていただいておりますので、併せてご参照ください。



(講演レジメ)

<http://www.lib.chime-u.ac.jp/EHIME/koenkai.pdf>

## 立命館大学における図書館改革

郷 端 清 人

はじめに.

社会情勢が目まぐるしく変化し、「独立行政法人化」を始めとして大学改革が急速に進んでくるなか、個々の大学図書館にあっては、今、いかなる改革をすべきかが強く問われている。今の大学図書館につきつけられている課題を概括すると、内部からの改革要件としては、急変する大学改革に対していかに対応していくか、また外部要件としては、IT化とグローバル化がある。特にインターネットは大学図書館の有り様を大きく変えるものとなってきた。しかし、これらの課題に対してもはや大学図書館が単独で取り組んでいくことは困難な状況にあるといえる。社会情勢の変化、また様々な大学改革に対して迅速に対応していくためには、単なる個別図書館の改革に留まらないことを大学全体で認識することが極めて重要な課題となってきた。立命館大学が今日までに取り組んできた図書館改革について以下に述べる。

### 1. 立命館大学における図書館改革

立命館大学の場合、早くから多岐にわたって図書館改革に対して積極的に取り組んできており、その概要は次の通りである。

#### (1) IT化の推進

本学における図書館の機械化は、古くは1989年から取り組んできたが、これまでそれを中心に図書館サービスの高度化や業務の効率化・高度化等を進めてきた。本格的なIT化は、1994年から開始し、それは単に図書館システムの開発ではなく、将来のネットワーク時代を想定し、キャンパスネットワークの整備および教育・研究システムや給与・学籍等の事務システム、また図書館システムを構築していた汎用機システムをクライアント/サーバー型のシステムに切り替えるなど全国の大学に先駆けてイントラネットの開発を積極的に進めてきた。図書館のIT化を推進するにあたっては、それまで学内に分散していた組織を統合し、資源の最適な整備とデータの一元管理、また人材・資源の有効活用等をは

かり、全学的な視点から図書館システムを構築してきた。インターネット技術がますます発展してくるなかで、組織の一元化により効率的なシステム構築とシステムの運用・管理が対応可能となった。

#### (2) 学術情報データベースの高度化

図書館システムのグレードアップに伴って、OPACの改善も様々にはかかってきた。1994年の本格的なIT化を契機に、導入データベースとリンクさせるなどWEB対応のOPACにも着手し、情報サービスの高度化を推進してきた。しかし、インターネットが急速に発達してくるに伴って特に顕著になってきたのは、図書館の重要なサービスの柱にデータベースをいかに充実するかが強く問われてきたことである。また一般にはこの時期、電子図書館の構築も盛んに行なわれ、多額の経費を確保し、学内資料のデジタル化を進める大学も多かったが、本学は導入データベースの充実を最重点課題として取り組んできた。二次情報データベースの大幅な増と構成員に対する利用の無料化を早期に政策化し、電子ジャーナルも徐々に増やすなどインターネット時代の図書館サービスを推進してきた。

#### (3) 業務委託の推進

当初業務委託の狙いはコスト削減であったが、学内外の諸改革に呼応して、図書館業務を臨機応変に変革させていくためには、業務委託は不可欠の課題であるとして取り組むようになった。特に私立大学の限界でもあるが、図書館が必要とする専門職の人材をいかに確保するかが最大の問題でもあった。これまで、閲覧・貸出業務や発注・受入・装備の業務を中心に業務委託を積極的に展開し、続いて目録業務やレファレンスの業務にまで発展することができた。これにより専門家を安定的に確保することができ、利用者へのサービスの充実を様々な展開することができた。また最近では学生のスタッフを図書館業務の中に参加させ、学生の視点からも図書館サービスの充実をはかっていくことを狙いとし、今後大いに期待しているところである。一方で、業務委



託が進むにつれて、専任職員の主要な任務が企画・立案、業務管理・人事管理、マネジメントに移り、合わせてより一層の専門スキルを高める必要がでてきている。

#### (4) 組織改革

図書館の情報化を推進していくにあたって、本学の場合早くから、図書館が単独で取り組んでいくことはできないと考え、図書館部門と大学全体の情報システム部門の組織統合を推進してきた。特に組織改革を行うに至った要因を概括すると情報化と業務委託化がある。インターネット時代の学術情報部門のあり方は、これまでの組織を全面的に見直す必要があると考え、大胆に組織統合を展開してきた。また後者の業務委託は、業務の合理化・効率化・迅速化、また情報サービスの高度化に大きく貢献してきており、業務プロセスの見直しとコンテンツの多様化への対応に極めて大きな効果があったと判断している。これにより、大学全体の情報化を推進し、学術情報サ

ービスの高度化をはかることができた。

#### 2. 今後の課題

これからの大学図書館にとって、与えられた条件（資金、体制、環境など）は年々厳しくなるなかで、インターネット時代に対応した図書費のあり方を考える必要がある。また年々書庫問題がクローズアップしてくるなか、資料保存のあり方についても考える必要がある。一方、急速に大学情勢が変化してくるなか、今日ほど、「誰のための大学図書館か」、また「何のための大学図書館か」を強く問われていることはなく、情勢の変化および利用者の動向を迅速につかみ、顧客重視の情報サービスをいかに展開していくかを大いに考えていかなければならない。その際、何を「コア・タスク」とするか、今こそ特徴ある大学図書館を創造していく必要があると考える。

（ごうば きよと 立命館大学BKC研究  
部門 次長）

## 電子ジャーナルの充実について

### 雑誌情報係

今や電子ジャーナルは、学術情報の収集において必要不可欠なものとして浸透しており、この効果は図書館のILL業務からみても明らかです。

本学においても例外ではなく、平成12年度のSD21の利用に始まり、その秋には医学部予算による"ProQuest Medical Library"、翌年にはAcademic Press社の"IDEAL"へと拡大していきました。

平成14年度は、文部科学省から「ライフサイエンス分野」を重点項目とした電子ジャーナル特別経費が配分され、これを契機に学部教官方及び大学当局のご理解、ご支援のもとElsevier ScienceDirect, Springer-Link, Wiley InterScience, Blackwell Synergy, JSTOR と利用タイトル数を増加させることができました。

さらに、平成15年度には文部科学省から「情報通信分野」「ナノテク・材料科学分野」を充実させるべく、電子ジャーナル経費が増額されたこと、また昨年度に引続き今年度も学部教官方のご理解、ご支援を得て電子ジャーナル経費が共通経費化されることとなりました。これを受けて検討した結果、昨年の電子ジャーナル群に加えて、新たにKluwer Onlineの利用が可能となりました。またElsevier ScienceDirectをフリーダムコレクションに変更したことにより、同社の電子ジャーナルが全て利用可能となっています。

利用統計をみると、すでにフリーダムコレクションへの拡大効果が読み取れます。

今後ともこれらの電子ジャーナルを継続するために、さらなるご理解、ご支援をお願い致します。

## ホームページから (1) 電子図書館紹介

附属図書館ホームページの電子図書館コーナーでは、本学所蔵の貴重資料のデジタルコンテンツ化による情報発信を展開しています。『句碑めぐり』『西條誌稿本』『江嶋家文書』等本紙で順次紹介していますが、新たに公開した資料は、次のとおりです。

\* 図書館ホームページ電子図書館 URL <http://www.lib.ehime-u.ac.jp/Denshi/>

### 多田満中 (絵巻)

満中は幸若舞曲を代表する一曲である。現存諸本は語り本系と読み本系のものに分けられるが、本絵巻は読み本系に属する一伝本と考えられる。読み本系のものには、奈良絵本の体裁のものが十本近く知られているが、絵巻は本絵巻以外にはなく、成立は江戸中期頃と推定される。



多田満中絵巻  
きんせいがいが  
近世絵画

### 俳家先哲墨蹟鑑

慶応四年に夢酔園なる人物の落成に合わせて、制作した短冊張り合わせ帳 (手鑑)。

其角, 嵐雪, 去来など江戸期の俳人の短冊44点を紹介。



去来 短冊

近世, 吉田蔵沢ほかの文人画11点を紹介, 蔵澤の墨竹画は松山の宝といわれ, 昔から珍重されてきた。正岡子規も蔵澤の墨竹をこよなく愛し, 根岸庵の床に常掛とし, 「蔵澤の竹も古しや庵の秋」などの句を残している。



蔵澤 墨竹画

## (2) インターネットでの「研究用図書購入申込」が本運用に

オンラインによる「研究用図書購入申込」サービスにつきましては、すでに医学部において電子メール方式で運用しており、好評をいただいていたところですが、この度、平成15年5月1日から、装いも新たに、Webサービスの一つとして全学的に本運用を開始いたしました。従来の図書請求票での依頼に比べ簡

単でスピードアップが図れます。

ご利用には図書館Webサービスの利用申込が必要です。

詳細は図書館ホームページのなかの学内向けサービス「図書館Webサービス >> 利用申込」([http://www.lib.ehime-u.ac.jp/ContDB/CCIRS/web\\_services.html](http://www.lib.ehime-u.ac.jp/ContDB/CCIRS/web_services.html)) をご覧ください。

## 本館閲覧室改装のお知らせ

開架図書室の閲覧机・椅子の更新及び1階参考図書室の書架の更新を行いました。

閲覧机, 椅子, 書架とも木製とし, また椅子の背・座面の布地をカーペットと同系の暖かい色としたことで, 全体として優しく明るい中にも, 落ち着いた雰囲気を実現しました。

一階参考図書室の書架は, 手前に低書架を配置し, 明るく開放的な環境を実現しました。使い勝手も格段によくなっておりますので,

どうぞご利用ください。



## 平成14年度附属図書館統計

### 蔵書冊数

(平成15年3月31日現在)

区分	和漢書	洋書	計
本館	696,820	294,765	991,585
医分館	44,676	54,839	99,515
農分館	96,765	25,345	122,110
計	838,261	374,949	1,213,210

### 貸出冊数

区分	教職員	学生	その他	計
本館	2,381	64,102	2,248	68,731
医分館	1,741	9,539	492	11,772
農分館	411	4,722	191	5,324
計	4,533	78,363	2,931	85,827

### 増加冊数

区分	和漢書	洋書	計
本館	12,944	5,220	18,164
医分館	△ 702	630	△ 72
農分館	974	414	1,388
計	13,216	6,264	19,480

### 貸出人数

区分	教職員	学生	その他	計
本館	1,270	34,533	1,108	36,911
医分館	1,201	5,874	273	7,348
農分館	251	2,698	92	3,041
計	2,722	43,105	1,473	47,300

### 所蔵雑誌種類数

(平成15年3月31日現在)

区分	和漢書	洋書	計
本館	7,774	3,345	11,119
医分館	1,572	1,481	3,053
農分館	2,823	931	3,754
計	12,169	5,757	17,926

### 学外文献複写受付件数 (現物貸借を含む)

区分	大学図書館	その他	計
本館	2,371	78	2,449
医分館	3,188	244	3,432
農分館	1,107	37	1,144
計	6,666	359	7,025

### 受入雑誌種類数

区分	和漢書	洋書	計
本館	4,095	1,410	5,505
医分館	624	420	1,044
農分館	1,006	283	1,289
計	5,725	2,113	7,838

### 学外文献複写依頼件数 (現物貸借を含む)

区分	大学図書館	その他	計
本館	2,830	183	3,013
医分館	3,893	89	3,982
農分館	1,196	61	1,257
計	7,919	333	8,252

### 「講談社学術文庫」配架のお知らせ

講談社学術文庫約750冊を購入しました。  
今後新刊が発行され次第、逐次購入予定です。  
第1開架閲覧室東側奥の文庫・新書のコーナーに配架していますので、ご利用ください。



## 平成15年度国立大学図書館協議会賞受賞

愛媛大学附属図書館電子図書館機能ワーキンググループは、平成15年度国立大学図書館協議会賞を受賞しました。地域との連携による郷土資料「江島家文書」の電子化事業が、図書館活動における功績として表彰されたものです。特に地方自治体からの財政的支援の下に、図書館の知識・技術を活用して地域社会への情報発信を行った点が、図書館活動の新たな方途を開いたとして高く評価されました。

平成15年6月25日大宮ソニックシティで開催された国立大学図書館協議会第50回記念総会において、小宮山会長から、代表の松本図書館専門員に対し、表彰状と記念メダルが授与されました。

愛媛大学の「21世紀を拓く創生プラン」には、地域の学術研究の中心として学術情報の

地域社会に向けての発信の必要性が謳われていますが、今回のワーキンググループの活動は、その具体的成果としても評価いただけるものと自負しております。

今後とも、学内や地域と連携し、愛媛大学として特色ある情報発信に向け果敢に挑戦していきます。



## 新館長就任

柏谷増男附属図書館長の任期満了に伴い4月1日付で、藤川研策教授（法文学部応用政策法）が就任されました。任期は平成17年3月31日までです。

## 分館長再任

平成14年11月1日付で安部武美農学部分館長（任期平成16年10月31日）が、また平成15年3月1日付で貴田嘉一医学部分館長（任期平成17年2月28日）が再任されました。

### 附属図書館委員会委員

（平成15年4月1日現在）

附属図書館長	藤川 研策	(17. 3.31)
医学部分館長	貴田 嘉一	(17. 2.28)
農学部分館長	安部 武美	(16.10.31)
法文学部	上山 友一	(16. 3.31)
法文学部	田村 憲治	(17. 3.31)
教育学部	加藤 國安	(16. 3.31)
教育学部	渥見 秀夫	(17. 3.31)
理学部	向井 和男	(16. 3.31)
理学部	日原 冬生	(17. 3.31)
医学部	鳥居 本美	(17. 3.31)
工学部	大上 健二	(16. 3.31)
工学部	羽藤 英二	(17. 3.31)
農学部	井上 章二	(16. 3.31)
事務局長	田村 幸男	

( )内は任期

### 附属図書館委員会

○平成14年度第3回附属図書館委員会  
日時 平成15年3月19日（水）

場所 附属図書館視聴覚室

議事

[報告事項]

1. 平成15年度電子ジャーナル整備計画について
2. 将来計画委員会・自己点検評価委員会報告
3. 分館近況報告
4. その他

[協議事項]

1. 平成15年度事業計画について
2. 平成16年度概算要求について
3. 愛媛大学附属図書館文献複写規程の一部改正について
4. その他



○平成15年度第1回附属図書館委員会

日時 平成15年5月14日(水)

場所 附属図書館視聴覚室

議事

[報告事項]

1. 平成14年度附属図書館活動報告について
2. 平成14年度学生用図書について
3. 平成14年度教育環境改善経費実施報告について
4. 平成15年度附属図書館事業計画について
5. 平成15年度電子ジャーナル整備について
6. 平成16年度概算要求について
7. 研究用図書のWebによる購入申込の実施について
8. 研究室貸出図書の蔵書点検について
9. 第51回中国四国地区大学図書館協議会総会について
10. 第30回国立大学図書館協議会中国四国地区協議会について
11. 分館近況報告
12. その他

[協議事項]

1. 附属図書館将来計画委員会について
2. 附属図書館自己点検・評価委員会について
3. 附属図書館図書選定小委員会について
4. 附属図書館図書選定小委員会要項(案)について
5. その他

## 図書館日誌(会議, 研修)

- 3月4日～ 第1回国際シンポジウム(NII主催国連6日 大学) 雑誌情報係長出席
- 4月17日～ 第51回中国四国地区大学図書館協議会総会(於:岡山) 館長, 事務部長, 情報管理課長, 情報サービス課長出席
- 5月1日 平成15年度第1回農学部分館運営委員会
- 5月14日 平成15年度第1回附属図書館委員会  
平成15年度第1回図書選定小委員会
- 5月15日 第74回医学図書館協議会総会(大阪) 情報サービス課長, 医学部資料情報係長出席
- 5月22日 平成15年度第2回農学部分館運営委員会
- 5月26日 平成15年度第1回医学部図書・情報委員会
- 5月28日～ 平成15年度国立大学附属図書館事務部課長会議(東京医科歯科大学) 事務部長, 情報管理課長出席
- 29日
- 6月13日 中国四国地区研究集会運営委員会(愛媛大学)  
平成15年度第2回医学部図書・情報委員会
- 6月20日 第2回図書選定小委員会
- 6月24日～ 課長研修(オリンピック記念青少年総合センター) 情報管理課長出席
- 26日
- 6月25日～ 第50回国立大学図書館協議会総会(さいたま市) 館長, 事務部長, 情報サービス課長, 専門員出席
- 26日
- 6月30日 平成15年度第3回医学部図書・情報委員会
- 7月3日 第1回図書収集事務委員会
- 7月7日～ 平成15年度大学図書館職員長期研修(東京・つくば) 上山係員出席
- 25日